

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

|         |                   |            |           |
|---------|-------------------|------------|-----------|
| 事業所番号   | 4170300174        |            |           |
| 法人名     | 有限会社 お元気村         |            |           |
| 事業所名    | グループホームお元気ハウス     |            |           |
| 所在地     | 佐賀県鳥栖市宿町門戸口1399-1 |            |           |
| 自己評価作成日 | 令和 5年 3月 31日      | 評価結果市町村受理日 | 令和5年6月27日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

|          |   |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | <a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a> |
|----------|---|

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

|       |                   |  |  |
|-------|-------------------|--|--|
| 評価機関名 | 公益社団法人 佐賀県社会福祉士会  |  |  |
| 所在地   | 佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号 |  |  |
| 訪問調査日 | 令和 5年 4月 19日      |  |  |

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様との関わりの時間を大切にしながら想いを汲み取れるよう努めると共に、医療と連携したこまやかな体調管理や、お一人お一人の状態に合わせたケアを模索することで、日々を豊かに過ごして頂けるような支援に努めている。また、利用者様・ご家族との信頼関係の構築に努めながら、様々な専門職との連携も図っており、チームで支え合い、助け合いながら柔軟な対応ができるような関係作りができています。感染症流行にて地域との交流や外出支援等が十分に行えていない現状はあるが、様々な工夫を凝らして感染対策を行いながらの行事やレクリエーション等の充実にも気がかけており、利用者様やご家族の笑顔につながるよう努めている。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

市街地に立つホームは、普段は地域の一員として当番もして役割を担っていたり、コロナ禍以前は朝市を開催し、近隣の方、農家さん、地元企業と繋がりをもっていた。現在も、コロナ禍でリスク面に配慮し今出来ることは何かを模索しつつ、地域との共生と絆を大切に、地域に根ざしたホームを目指す思いは継続している。医療面でのサポートが充実しており、終末期など家族の希望に応じ、看取りまで行うケースがほとんどである。看取りに関する経験がスタッフの介護に関するスキルを伸ばしており、普段のケアの充実にもつながっている。理念に重きを置き、入居者様、ご家族の希望を最大限優先することを日々実践しているホームである。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目  | 取り組みの成果<br>↓該当するものに○印 |    | 項目   | 取り組みの成果<br>↓該当するものに○印 |    |
|---|-----------------------|----|--|-----------------------|----|
|   | 東館                    | 西館 |  | 東館                    | 西館 |
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる<br>(参考項目:23,24,25)     | ○                     | ○  | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている<br>(参考項目:9,10,19)   | ○                     | ○  |
| 57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある<br>(参考項目:18,38)           | ○                     | ○  | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている<br>(参考項目:2,20)                     | ○                     | ○  |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている<br>(参考項目:38)                 | ○                     | ○  | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている<br>(参考項目:4) | ○                     | ○  |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている<br>(参考項目:36,37)  | ○                     | ○  | 66 職員は、活き活きと働けている<br>(参考項目:11,12)                                      | ○                     | ○  |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている<br>(参考項目:49)                | ○                     | ○  | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う                                       | ○                     | ○  |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている<br>(参考項目:30,31)       | ○                     | ○  | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う                                   | ○                     | ○  |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている<br>(参考項目:28) | ○                     | ○  |  |                       |    |

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

| 自己                 | 外部  | 項目  | 東館   | 西館  | 外部評価  |                   |
|--------------------|-----|---|--|---|---|-------------------|
|                    |     |   | 実践状況   | 実践状況  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| <b>I. 理念に基づく運営</b> |     |   |  |   |   |                   |
| 1                  | (1) | ○理念の共有と実践<br>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている  | ホーム独自の理念を目につきやすい玄関等に掲げており、意識付けにつなげている。また、ケアプランに基づき個人に合わせたチームケアを協力して行っており、理念の実践につなげている。   | 玄関先や休憩室に理念を掲示しており、入職した際には実際に書いてもらって意味の説明まで行っている。また、カンファレンス等でも理念を踏まえた上での利用者本位のケアを検討している。                                 | ホームの理念は、目につくところに掲示している。入職時に理念の説明している。日頃からスタッフの疑問や迷う事に関しては、理念を踏まえた説明をしている。         |                   |
| 2                  | (2) | ○事業所と地域とのつきあい<br>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している  | 感染症流行にて地域との交流の機会が減っているが、散歩に出る際には挨拶を交わしたり、来訪時には毎月発行しているお元気だよりをお渡ししている。また、地区の一員としての当番等も担わせて頂いている。  | コロナ禍以前は朝市や高齢者カフェを毎月開催しており、行事等にも自由に地域の方に参加して頂いていたが、感染症流行にて交流の機会が減っている。近隣の方から古布回収のご協力を頂き助けられている。                          | 管理者が、地域の一員として当番もしている。コロナ禍以前ほど交流は多くないが、古布を貰ったりと地域の方とのつながりはあり、訪ねてきた方にはお便りを渡している。    |                   |
| 3                  |     | ○事業所の力を活かした地域貢献<br>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている  | コロナ禍前はキャラバンメイトや認知症カフェ等の地域に向けた講習や様々な勉強会を開催していたが、しばらく実施できておらず。定期的な勉強会にて認知症の知識が深められるよう努めている。  | 地域の方々やご家族等からお尋ねがあった際に、認知症のことについて適切に答えられるよう、定期的な勉強会や、疑問がある際はその都度学ぶ機会を作り、認知症の更なる理解に努めている。                                 |   |                   |
| 4                  | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている                                     | 2ヶ月に1回運営推進会議を開催しており、事故報告や活動報告と共に書面での意見交換を行いながらサービス向上につなげている。職員への周知徹底のためにも、閲覧できるようにしている。  | 感染症流行の為、書面での情報共有と意見交換を行っており、職員が閲覧できるようにした上で必要に応じて他の会議でも話し合う機会を設け、ケアの改善につなげている。不参加のご家族には会議録を送付している。                      | 感染防止の為、対面での会議の代わりに書面で2ヶ月に1回意見交換をしている。対面時より、意見は多くもらえている。スタッフも閲覧した上でケアの改善につなげている。   |                   |
| 5                  | (4) | ○市町村との連携<br>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる   | 感染症流行にて市と協力して行っていた活動も減っているのが現状であるが、管理者が佐賀県日本認知症グループホーム協会の役員をしており、中心となって市町村との協力体制を築いている。  | 管理者や介護支援専門員等が介護保険課や地域包括支援センター、市役所等に出向いたり、お電話で相談させて頂く機会が度々あり、気軽に情報共有や協力し合える関係づくりができています。                                 | 市民活動、グループホーム協会等、市と協力する活動も多い。管理者と市の担当職員とは長年の付き合いで関係性が出来ている。                        |                   |
| 6                  | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践<br>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束等の適正化のための指針を作成すると共に、定期的に勉強会を開催して、身体拘束をしないケアについて理解を深め、運営推進会議でも身体拘束に関する意見交換を行っている。また、夜間等安全性や防犯も含めて施錠をする時間はあるが、必要性や適切な対応であるかを定期的に話し合うようにしている。 | 見守りのもと自由に玄関を出入りして頂けるよう、鍵を閉めないケアに取り組んでおり、定期的な勉強会にて何が身体拘束にあたるのかを学ぶ機会を作っている。防犯上や安全性をふまえて施錠をする時間はあるが、必要な時間帯のみの対応を統一して行っている。 | 日頃から、鍵を掛けないケアを夜間以外実践している。全体会議、内部勉強会、外部研修で身体拘束に関し理解を深めている。日頃から、スタッフ同士ケアに関し話し合っている。 |                   |
| 7                  |     | ○虐待の防止の徹底<br>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている                                     | 定期的に認知症や高齢者虐待についての勉強会を開催して、何が虐待にあたるのかの理解を深め、カンファレンス等でも不適切なケアが無いかの確認を行いながらケア方法の模索を行っている。  | ケアに関しての気づきはその都度意見交換を行い、工夫した支援と共に協力体制を整えることで、不適切なケアにつながる事の無いよう注意すると共に、勉強会でも虐待についての理解を深めている。                              |   |                   |

| 自己 | 外部  | 項目   | 東館  | 西館   | 外部評価   |                   |
|----|-----|--|---|--|--|-------------------|
|    |     |  | 実践状況  | 実践状況   | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8  |     | ○権利擁護に関する制度の理解と活用<br>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している    | 以前は成年後見人の方とも連携を持っていたが、現在は利用している方はおらず、いつでも対応できるよう勉強会等を通して権利擁護についての理解を深められるような機会を作っている。                     | 成年後見制度を利用されている方がおられるため、後見人さんやご家族とも連携をとりつつ、利用者様の生活が支えられるよう協力関係を築いている。権利擁護に関しても勉強会にて知識を深めている。            |  |                   |
| 9  |     | ○契約に関する説明と納得<br>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている                         | 契約前の段階から、ご家族やご本人の不安や疑問点が無いか確認し、契約内容に不明な点が無まま契約締結することのないよう十分な説明に努めている。また、改定時にも書面だけで無く必ず説明を行っている。           | 契約前に限らずいつでもご不明な点や疑問があれば、その都度説明やご相談にのれるような関係作りに努めており、改定時にも書面だけでなく電話であったり、直接説明を行いながら納得された上での同意を頂いている。    |  |                   |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映<br>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている                     | 運営推進会議で頂いた意見等は職員が閲覧できるようにしており、日々のケアにも反映させながら、サービス向上につなげることが出来るよう努めている。また、ご家族やご本人からの意向を引き出せるような関わりにも努めている。 | 玄関先には意見箱も設置しており、ご家族との連絡を取り合う際にも、意見や要望をできる限り引き出せるような説明や会話に努めている。また、利用者様の意向が聞かれた際にも職員間で共有してケアの改善につなげている。 | コロナ禍で面会が制限される中、入居者家族とは、電話、SNSを頻回にし意見を貰うように努めている。スタッフ会議でも意向を基にしたケアの改善に努めている。  |                   |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映<br>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている                                      | 毎月の各会議にて自由に意見を表出できる機会を設けており、新しい提案については職員間で協力して実施し、翌月の会議で評価を行うようにしている。また、管理者は職員と気兼ねなく報連相が出来るような関係作りに努めている。 | 全体会議のみならず各部署の会議やカンファレンス等、意見交換の機会が定期的であり、日常的にもケアや業務に関してこまめに意見交換を行いながら、その都度提案した改善策を協力して実施している。           | 毎月の各会議で自由に意見を言う機会を設けている。新しい提案に関しては実践し、翌月の会議で評価している。管理者と職員は気楽に相談出来る関係性が出来ている。 |                   |
| 12 |     | ○就業環境の整備<br>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている      | 各々の希望に合わせてこまめに勤務調整をして頂いており、有給休暇の取得や毎年の昇給だけでなく、長年勤務した職員に関しては特別な賞与もあり、働き続ける意欲につながっている。また、資格取得へのサポートが整っている。  | 経験年数や力量に合わせて役職を選任すると共に、資格取得や資格手当等のサポートもあり、向上心を持って働ける職場環境となっている。また、毎月職員は自己評価シートにて自身の業務を振り返る機会が設けられている。  |  |                   |
| 13 |     | ○職員を育てる取り組み<br>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている         | 新人職員や産休明けの職員には、可能な限り指導やサポートがつくような勤務体制を確保している。また、資格を持たない職員に関しては勤務内での研修や資格取得の機会もてるように配慮されている。               | コロナ禍で機会は減っているが、力量に合わせた研修の機会をできる限りサポートしており、リモートでの研修を受ける機会も設けている。また、研修で学んだ内容を他の職員にも伝達することで学びにつなげている。     |  |                   |
| 14 |     | ○同業者との交流を通じた向上<br>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | コロナ禍で機会は減っているが、管理者が日本認知症グループホーム協会の役員をしており、同業者との研修や交流の機会を中心になって作りながら、情報交換やネットワーク作りに努めている。                  | 管理者研修や施設見学、災害派遣等の機会を通して同業者との交流の機会があり、学び合い助け合う関係作りの構築に努めながら、学んだことをサービス向上につなげられるよう、他の職員とも情報共有している。       |  |                   |

| 自己                         | 外部  | 項目   | 東館  | 西館   | 外部評価  |                   |
|----------------------------|-----|--|---|--|---|-------------------|
|                            |     |  | 実践状況  | 実践状況   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| <b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b> |     |  |   |  |   |                   |
| 15                         |     | ○初期に築く本人との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居前からご本人やご家族との相談の機会を設け、困っている事やホームでの過ごし方について確認を行うと共に、入居後も24時間シートを活用して情報共有し、少しずつホームでの生活に慣れて頂けるよう関係作りに努めている。 | 入居前から十分にご本人やご家族と相談を行い、入居後も密に関わりをもちながらご本人のペースに合わせて少しずつ関係作りが行えるよう努めている。不安が聞かれた際にも想いに寄り添い傾聴に努めている。            |   |                   |
| 16                         |     | ○初期に築く家族等との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている            | 初期の段階から十分にご家族の不安や要望等がくみ取れるよう努め、こまめに連絡を取り合いながら経過や状況をお伝えすることで、その都度不安が軽減できるよう配慮し、信頼関係が築けるよう努めている。            | サービス導入前からも十分にご家族との話し合いの機会をもっており、入居後も直接の面会時やお電話、お手紙等でも生活状況等をお伝えしながら、いつでも気軽に相談できるような関係作りに努めている。              |   |                   |
| 17                         |     | ○初期対応の見極めと支援<br>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている        | サービス導入前の段階でご本人やご家族の意向を十分確認し、当ホームに限らず必要な支援が受けられるよう、他施設の紹介や説明等も行っている。また、経過は密に情報共有し、その都度サービス内容の検討を行っている。     | 相談の段階でご本人とご家族の必要としている支援が何かを見極め、他施設のサービス利用の可能性も踏まえた上で、当ホームで可能な支援をお伝えし、意向を確認しながら必要なサービスに繋げられるよう手助けしている。      |   |                   |
| 18                         |     | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている                        | ご本人のもつ力や経験、嗜好を大切に、その方の暮らしを支え、介護される一方の立場に置くのではなく、共に生活する人と人との良好な関係が築けるよう配慮しており、第2の家としての役割が発揮できるよう努めている。     | ご本人のこれまで生きてきた生活歴を大切に、その知識や経験を活かして家事手伝いや趣味の時間がもてるよう手助けすると共に、暮らしを共にする人同士の支え合いの関係作りができるよう努めている。               |   |                   |
| 19                         |     | ○本人を共に支えあう家族との関係<br>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている         | 面会時のみならず、お電話やお手紙、写真等でもご本人の様子をお伝えし、ご家族からはご本人の首の事等をより深く教えて頂くことで、共に支え合いながらより良いケアに繋げられるよう協力関係を築いている。          | ご家族にかなう人はいないということをお伝えしながら、たくさんお話する機会をもち、いつでも相談し合える関係作りに努めている。ご本人の好みや意向に合わせて差し入れもして下さり、職員への労いの言葉もかけて下さっている。 |   |                   |
| 20                         | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援<br>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている                     | コロナ禍で不自由な状況は続いているが、窓越しの面会であったり、外での距離をとった面会等の対応を行っており、大切な方との交流の機会を保てるよう支援している。ラインでのビデオ通話をして頂くこともある。        | コロナ禍で面会制限も余儀なくされているが、職員のサポートのもと窓越しの面会であったり、ラインを活用して動画で様子をお伝えしたり、ビデオ通話での交流の機会も作れるよう支援している。                  | 毎月、家族に便りと写真等を送っている。オンライン面会や窓越しの面会等を行っている。ホーム周辺に入居者の新たな馴染みの店、場所を作る試みをしている。 |                   |
| 21                         |     | ○利用者同士の関係の支援<br>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている                 | 利用者様同士の関係性に合わせて、席の配慮を行ったり、他者と共にソファでゆっくりした時間を過ごして頂けるよう交流の機会を支援している。また、家事手伝いやレクリエーションを通して関係性の構築につなげている。     | ほぼ毎日午後には体操やボールを使った運動、歌等のレクリエーションを実施しており、利用者同士の交流を通して関係性が保てるよう支援している。また、交流時には職員が間に入ってコミュニケーションの手助けを行っている。   |   |                   |

| 自己                                 | 外部   | 項目   | 東館   | 西館  | 外部評価  |                   |
|------------------------------------|------|--|--|---|---|-------------------|
|                                    |      |  | 実践状況   | 実践状況  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22                                 |      | ○関係を断ち切らない取組み<br>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている                    | サービス終了後も運営推進会議に参加して下さっているご家族もおられ、お手紙を頂いたり、職員への差し入れを下さる方もおられた。いつでも気軽に訪ねて頂けるようなお声掛けも必ず行っている。                                 | 利用終了後もも訪問して下さる方や、新聞紙、古布等を持ってきて下さる方もおられ、職員にねぎらいの言葉をかけて下さっている。また、他の方のサービス利用につながるような紹介をして下さる方もおられる。                        |   |                   |
| <b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b> |      |  |  |   |   |                   |
| 23                                 | (9)  | ○思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している   | お一人お一人の性格や想いを日々の関わりの中でも汲み取りながら、職員同士でも共有することによって、個々に合わせた対応を検討して支援につなげている。また、ご家族からの情報も頂きながら意向を汲み取れるように努めている。                 | カンファレンスの際のみならず、日々の関わりの中で聞かれる意向や要望・表情や言動等を職員同士でも情報共有し、その都度支援を検討して、出来る限りの対応を行っている。ご家族からのご協力も頂きながら支援につなげている。               | 入居者と会話をたくさん持つことを実践しており、些細な会話から出たどんな意見でもいったん取り上げ一方通行にせず、会議等で検討し反映するようにしている。  |                   |
| 24                                 |      | ○これまでの暮らしの把握<br>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている                                       | 入居前からご本人又はご家族から生活状況やサービスの利用状況と共に、意向や要望を聞き取るようにしており、収集した情報は事前に職員が周知できるようにしている。入居後も更なる情報収集と共有に努めている。                         | 入居前から情報収集を十分に行い、暫定ケアプランと共に情報シートを職員が閲覧できるようにしている。また、入居時には少しでも環境の変化が少ないよう自室の環境を整えたり、安心して頂けるような対応を事前に検討している。               |   |                   |
| 25                                 |      | ○暮らしの現状の把握<br>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている   | 毎日の支援状況を詳しく伝達するとともに、心身面の変化に合わせた体調管理や、力を発揮できるような対応の工夫についても情報共有し、その日の状態に合わせた1日の過ごし方を検討しながら支援できるよう努めている。                      | 日々の申し送りや伝達ノートを活用して、お一人お一人の支援状況や心身状態について情報共有できており、ご本人のもつ力を引き出せるような支援方法を模索している。また、カンファレンスの度に詳しいアセスメントシートを作成している。          |   |                   |
| 26                                 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | カンファレンスの際にはご本人の日々の暮らしぶりや言動・表情から汲み取れる意向と共に、ご家族の意向や主治医・看護師等の専門職からのご意見も頂きながら、介護職員の支援状況の確認を行い、その都度支援の方向性の検討を行いながら介護計画に反映させている。 | カンファレンスの際には、日々の支援状況の振り返りを行うと共に、ご本人さんの意向やご家族の希望の確認を行い、主治医や看護師等の専門職からのご意見も頂くようにして話し合いを行うことで、よりよい生活につなげられるような介護計画作りに努めている。 | 家族の意向及び主治医、看護師、時には理学療法士からも意見をもらい、介護計画に反映している。ケアごとのチェック表を作成し、必要に応じて見直しをしている。 |                   |
| 27                                 |      | ○個別の記録と実践への反映<br>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている                        | 日々の様子を個別の介護記録に記載するようにしており、申し送りにて詳細の情報共有を行いながら、心身の状態に合わせた支援が行えるように努めている。また、毎日のケアプランチェックにて支援の実施状況を確認している。                    | 個々の介護記録にはケアプランを意識した支援状況を記載するように努めており、申し送りでも気づきや工夫についての情報伝達を行うことで、支援の見直しやよりよい支援の検討につなげることができている。                         |   |                   |
| 28                                 |      | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化<br>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる               | グループホームで出来ることと、他の協力機関で実施可能な事などをその都度検討しながら、ご本人の心身状態の変化や要望に応じた柔軟な対応が出来るよう、ご家族ともその都度相談しながらニーズに合わせた対応に努めている。                   | ご本人やご家族の意向に合わせて可能な限り要望に応えられるよう、その時々状況・状態に合わせてその都度支援を相談して検討しており、形にとらわれない柔軟な支援が行えるよう努めている。                                |   |                   |

| 自己 | 外部   | 項目  | 東館  | 西館   | 外部評価  |                   |
|----|------|---|---|--|---|-------------------|
|    |      |   | 実践状況  | 実践状況   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 |      | ○地域資源との協働<br>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している                                      | 以前は地域の行事に参加したり、地域の学生さんとの交流を通して関係づくりを行っていたが、感染症流行にて地域との関わりが減っている。かかりつけの病院や福祉用具関係者からのご協力は頂いている。                                 | 運営推進会議等を通して地域からのご意見を頂く中で、利用者様の安全で豊かな生活について支援の検討を行っている。また、かかりつけの病院利用の継続も支援している。感染症流行にて行事等での交流が難しい状況である。                       |   |                   |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援<br>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している                                  | ご本人・ご家族の希望に合わせてかかりつけ医を決めて頂いており、安心して適切な医療が受けられるようサポート体制を整えている。体調や心身状態の変化等も病院と連携して報告や相談の機会ももてるよう配慮している。                         | 希望に合わせたかかりつけ医にて対応しており、専門医への受診の際にも情報共有を行いながら体調の変化や内服の変更等の情報伝達をサポートし、適切な医療が受けられるよう支援を行っている。                                    | 希望に合わせたかかりつけ医を基本としているが、提携医のメリットも説明し主治医を決めていただいている。提携医は毎日入居者の状況を見に来られ安心感がある。             |                   |
| 31 |      | ○看護職との協働<br>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している                          | 朝夕の申し送りの際にも、些細な心身状態の変化や気づきについても情報共有し、その後の様子の変化についてもこまめに報連相を行うことで、利用者様が適切なケアが受けられるよう協力体制を築いている。                                | 夜間の様子や日々の関わりの中で気づいた心身状態の変化等も看護師に申し送りを行い、主治医にも報告して頂きながら指示のもと体調管理の支援につなげている。また24時間体制でのオンコールがあり、協力体制を築いている。                     |   |                   |
| 32 |      | ○入退院時の医療機関との協働<br>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入退院時には主治医の協力を頂いて、診療情報提供をして頂いており、入院先の看護師やソーシャルワーカーとの連携にて、ご本人が安心して治療を受けられるようなサポートに努めている。提携している協力病院のみならず、関係者との報連相はこまめに行うようにしている。 | 最近入院された方はいらっしゃらないが、入退院時は主治医に情報提供をして頂いたり、入院先のソーシャルワーカーとの情報共有を行いながら連携に努めるようにしている。また、早期の退院支援に向けて対応可能な医療面のケアについても主治医と共に検討している。   |   |                   |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援<br>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる  | 入所時から看取りについての意向を確認するようにしており、体調を大きく崩されたような際にもその都度想いの変化を打ち明けて頂けるよう主治医と共に話し合いの機会を作るようにしている。方針や意向はチームで共有し、医療と連携したこまやかなケアに努めている。   | 入所前の段階での看取りの意向を確認すると共に、状態変化時にはその都度報告や相談を行いながら支援を検討しており、要望や主治医からの相談に合わせてご家族との話し合いの機会も作っている。医療と連携してチームで意向を共有し、最後までお世話させて頂いている。 | 入所時に看取りに関して意向を聞いている。チーム支援に関し新人の方にベテランをつけて経験させている。主治医に確認をしながらチームで意向を共有し、細やかな看取りケアに努めている。 |                   |
| 34 |      | ○急変や事故発生時の備え<br>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている  | 日頃から看護師や主治医より状態変化に関しての観察点を教えて頂いており、24時間体制での看護師のオンコール対応があるため、体調変化時は連絡して相談し、必要に応じて主治医の指示も頂きながら対応している。                           | 緊急時の物品を毎月の会議で確認しており、急変についての観察点は看護師や主治医からも教えて頂いている。感染症流行にて消防署と連携した応急手当の講習会がしばらく実施できていないため、開催の検討が必要。                           |   |                   |
| 35 | (13) | ○災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている  | 毎年2回火災・避難訓練を実施しており、災害時の状況を想定した調理を実施したこともある。消火訓練は鳥栖十八防災からご協力を頂いている。感染症流行にて全体での避難訓練が実施できていないため検討が必要。                            | 毎年2回火災・避難訓練を実施しており、鳥栖十八防災との連携にて消火訓練も実施している。地震や水害についての想定も行いながら、訓練や勉強会を通して知識と共に体で覚えらるるような取り組みに努めている。                           | 日中、夜間想定での避難訓練を年2回実施している。災害を想定した調理の実践や消防設備会社との連携で消火訓練も実施している。出来る範囲で他の災害への取り組みを行っている。     |                   |

| 自己                               | 外部   | 項目  | 東館  | 西館  | 外部評価  |                   |
|----------------------------------|------|---|---|---|---|-------------------|
|                                  |      |   | 実践状況  | 実践状況  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| <b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b> |      |   |   |   |   |                   |
| 36                               | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保<br>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている                    | 関わりを深くもつなかで言葉かけ等が慣れ親しんだ間柄のようなフランクな言葉遣いになりがちであるため、ご本人を尊重した対応や関わりがもてるよう会議等にも取り上げたり、自己評価にて振り返りができるようにしている。 | 日々の支援の中で気づいたことは職員同士でも話し合い、ご本人を尊重した対応が出来るかを振り返りながら支援を検討している。また、カンファレンスの際にも気付きやご本人意向を共有して支援の改善につなげている。        | 入居者を尊重した対応が出来るのか、日々の支援の中で気づいたことをその場で職員同士話し合っている。また、全体的に出来ないことは会議で話し合うようにしている。 |                   |
| 37                               |      | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援<br>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている                      | 1対1での関わりの時間を大切にしており、言動や表情から想いを汲み取れるよう努め、職員同士でも共有して意向に合わせた対応につなげている。また、ご家族からも助言を頂きながら、想いや意向の把握につなげている。   | 関わりの中で不意に聞かれる想いや意向をのがさず職員同士でも情報共有を行い、出来る限りの対応が行えるよう努めている。また、一つ一つの支援についてきちんと説明を行いながら同意のもと支援を行うよう配慮している。      |   |                   |
| 38                               |      | ○日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | その日の心身状態に合わせて支援を行っており、食事や休息等の時間もその都度ご本人の様子に合わせて対応している。規則正しい生活リズムを整えつつも、ご本人のペースを大切に柔軟な対応を行うようにしている。      | 一人ひとりのペースで自由に過ごして頂いており、その中で少しでも快適に過ごして頂けるような生活リズムが整えられるよう支援を行っている。また、介護計画に沿いながらも、意向や要望に合わせて柔軟な対応に努めている。     |   |                   |
| 39                               |      | ○身だしなみやおしゃれの支援<br>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している                                   | 衣類等はご家族にもご協力頂きながら、好みのものを用意して頂いており、その日の気候等に合わせながら衣類の調整を支援している。また、離床時は特に鏡前で身だしなみの支援を気がけて行うようにしている。        | ご本人の好みの衣類を着て頂いており、必要に応じて更衣や調節の支援を行っている。また、紙を櫛でといて頂いたり、アクセサリを付けて頂く等、おしゃれの支援も行い、気分転換につなげている。散髪時も好みに合わせて頂いている。 |   |                   |
| 40                               | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている      | 感染症流行にて調理の機会が減っているが、レクリエーションとして鉄板で調理しながらの食事を楽しんで頂く機会を作っている。また、おしぼり巻きや「食器拭き等のお手伝いは毎日して頂くようにしている。         | 感染症流行にて一緒に調理する機会は減っているが、要望に応じた食事やおやつを提供を行い、食事を楽しんで頂けるような配慮を行っている。また、トースト等を自己にて用意される方がおられ、購入や用意のサポートを行っている。  | コロナ禍で、一緒に調理する機会は減っているが、鉄板料理など楽しみながら食事する工夫を実践している。個別の状況に応じて支援している。             |                   |
| 41                               |      | ○栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている           | 食事や水分の摂取量が把握できるようチェック表を作成しており、体重測定も含めて栄養状態の把握に気がけている。また、こまめな水分補給の支援にて脱水からくる病気の予防に努めており、必要に応じた支援を行っている。  | こまめな水分補給をすすめて、個々に合わせた支援の工夫にて負担少なく摂取量が確保できるよう努めている。また、飲食物はチェック表をもとに把握に努めており、自己での摂取を勧めつつ、必要に応じて工夫した支援を行っている。  |   |                   |
| 42                               |      | ○口腔内の清潔保持<br>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている                    | 毎食後、ご本人の力に合わせて口腔ケアの支援を行っており、口腔状態の観察にも気がけている。また、必要に応じて訪問歯科医による治療やケアが受けられるようサポートしており、口腔清潔の保持に努めている。       | 個々に合わせた口腔ケアの支援を行っており、支援状況の情報共有を行っている。また、ご本人・ご家族の意向や口腔状態に合わせて歯科医師より治療や口腔ケアに来て頂いており、歯科からの指示も共有してケアに努めている。     |   |                   |

| 自己 | 外部   | 項目  | 東館  | 西館   | 外部評価  |                   |
|----|------|---|---|--|---|-------------------|
|    |      |   | 実践状況  | 実践状況   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援<br>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている                              | 排泄チェック表を活用して排泄リズムの把握に努めると共に、排泄物の観察も十分に行い、看護師や主治医に報告しながら指示のもと排泄リズムが整えられるよう支援している。また、可能な限りトイレへの誘導を行うようにしている。                  | 日中はトイレへの誘導を主に心地よくトイレでの排泄ができるよう支援の工夫を行っている。夜間はゆっくり休んで頂けるよう配慮しながらも、個々の必要性に応じてパット交換やオムツの使用を検討して対応している。                        | 日中は、排泄チェック表により間隔と行動状況からトイレ誘導し殆どトイレで排泄している。スタッフ間の排泄状況の確認も数字を使い羞恥心に配慮した対応をしている。 |                   |
| 44 |      | ○便秘の予防と対応<br>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる  | 毎朝牛乳を飲用して頂いており、排泄物の性状や量の情報共有に努めながら、十分な水分補給と共に、甘いものの摂取を控えて頂き便秘の解消に努めている。必要に応じて医療指示のもと緩下剤や坐剤を使用している。                          | 排泄物の量や性状等の情報共有に努めており、こまめな水分補給や歩く機会を支援することで便秘の改善に努めている。必要に応じて看護師や主治医と相談して内服や坐剤等にて排便を促すこともある。                                |   |                   |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援<br>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている                        | 特別に要望等が無い場合は、体力に配慮して週2回の入浴又は清拭等にて清潔支援に努めている。ある程度曜日等は事前に予定を立てているが、その日の状態や意向に合わせて職員同士協力しながら柔軟に対応している。                         | 毎日入浴される方もいれば、週2回で良い方もおられ、要望に合わせて予定を立てている。その日の状態によっては時間帯や曜日の変更をその都度行っており、ご本人さんとも相談しながら支援を行っている。                             | 週2回の入浴を基本としているが回数、時間帯に関しても個別にも対応しており職員間で柔軟に対応している。入浴剤の活用など入浴を楽しむ配慮されている。      |                   |
| 46 |      | ○安眠や休息の支援<br>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している   | 夜間の様子を詳しく情報共有し、日中はその日の状態に合わせて休息の配慮を行いながら、生活リズムが整えられるよう離床時間を作っている。また、夜間覚醒や不眠がみられる方は、日中の活動性をあげながら、夜間も不安の軽減ができるような支援の工夫に努めている。 | 高齢でもあるため、日中はこまめに休息をとって頂きながらも夜間の入眠のリズムが整えられるよう離床や外気浴・散歩の支援にも気がかけている。また、夜間の支援状況を共有することで安心して休んで頂けるような配慮や支援の工夫につなげている。         |   |                   |
| 47 |      | ○服薬支援<br>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている  | 内服の一覧表があり、すぐ内容が確認できるようになっている。変更時にも紙面で確認できるようになっており、副作用等共に必ず申し送りを行い、経過観察を密に行うようにしている。また、様子の変化時は看護師や主治医にも報告して指示を仰ぐようにしている。    | 内服一覧表で確認できるようにしており、複数の病院からお薬をもらっている方は別紙を作成して内容や変更等もわかりやすいようにしている。また、臨時で内服が追加になった際も別紙にて情報共有を行い、副作用等についても看護師に尋ねて確認するようにしている。 |   |                   |
| 48 |      | ○役割、楽しみごとの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている                             | 昔されていたお仕事や趣味等を活かして楽しみ事や気分転換の支援が行えないか支援の模索に努めており、支援状況を情報共有しながら、その日の心身状態に合わせて実施して頂けるように配慮している。                                | ご本人の意向に合わせてながら家事手伝い等の役割を担って頂いたり、趣味に関する活動支援に気がかけている。また、主治医に体調の相談を行いながらもお酒やお菓子などの嗜好品も可能な限り自由にとって頂いている。                       |   |                   |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援<br>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 感染症流行にて外出の制限を余儀なくされている。近隣へのドライブは少人数にて支援している。また、天候の良い日には外気浴や散歩などの支援に気がかけており、再び要望に合わせた外出支援や外出レクの支援ができるよう検討していきたい。             | 感染症流行にて外出の機会がほとんど無い状況であるが、少人数でのドライブは支援している。また、必要に応じた他科受診はして頂いている。天候に合わせて外気浴や散歩の支援は行っており、再び買い物や外食・季節の外出レクが行えるよう検討していきたい。    | コロナ禍で外出に規制がかかる状況だが、散歩は1対1で毎日実施している。コロナ禍以前は家族風呂にも行っており楽しみの外出支援を出来る範囲で計画している。   |                   |



| 自己 | 外部   | 項目   | 東館  | 西館  | 外部評価   |                   |
|----|------|--|---|---|--|-------------------|
|    |      |  | 実践状況  | 実践状況  | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 |      | ○お金の所持や使うことの支援<br>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している  | 現在は個人で所持したり使用される方はいらっしゃらないが、個人用のお財布を事務所に預けておられる方はおり、必要時には使用の支援を行っている。感染症流行にて買い物機会の機会自体も減っている。                           | 個人でお財布を所持している方がいらっしゃるため、ご本人や必要に応じてご家族とも相談しながら使用して頂いている。また個人用のお財布を事務所に預けて頂いている方もいる。買い物は代行しているため、今後買い物の機会も作りたい。                           |  |                   |
| 51 |      | ○電話や手紙の支援<br>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている   | 電話も要望に応じながら支援しており、最近ではライン動画での電話をして頂くことで喜んで頂けたこともある。年賀状と一緒に作成してお送りしたり、手紙が届いた際には読み上げる支援を行うこともある。                          | 携帯電話を持っておられる方は自由に連絡をとられており、そのほか要望に応じて支援のもと電話は自由に使用して頂いている。一緒に作った年賀状を送ったり、届いたお手紙やハガキはお部屋に飾らせて頂いている。                                      |  |                   |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | こまめに室温調整を行っており、寒い日は足を暖められるようファンヒーターを使用している。定期的に換気も行い、天井から入る光によっては席の配慮も行っている。季節感のある飾りつけも定期的に行っており、季節の変化を楽しんで頂けるよう配慮している。 | 季節に合わせた飾りつけを行ったり、利用者様の作品も飾ることで趣味や楽しみ事の支援にもつなげている。室温調整や加湿にも気がかけており、心地よく過ごせるような配慮に気がかけている。感染対策の換気にて室温が下がりやすく、ファンヒーターやひざ掛けにて対応させて頂いたこともある。 | 季節に合わせた飾りつけをしたり、入居者が作った作品を飾ったりして居心地のいい空間が作られている。また、職員に関しては、足音を小さくする配慮等がなされている。 |                   |
| 53 |      | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり<br>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている  | ソファを活用して一人でゆっくり過ごして頂いたり、他者との交流の機会がさりげなくもてるよう配慮しており、その時々状況に合わせてながら関係性を考慮して対応している。また、コミュニケーションのサポートにも気がかけている。             | 関係性に配慮しながら席を検討しており、交流の様子に合わせてながらコミュニケーションの手助けを行ったり、楽しく過ごして頂けるような配慮に努めている。ソファの活用も今後検討していきたい。   |  |                   |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている   | 入居時にはご自宅で使われていたものやなじみの物等を自由に持って来て頂くようにしており、居心地の良い環境作りが整えられるよう相談しながら対応している。寝具等も安心して休めるものをその都度検討している。                     | ご自宅で使用されていたものや仏壇等、なじみのあるものを自由に持って来て頂いており、安心して過ごして頂けるような環境作りに努めている。床のマット等もご家族と相談しながら安全に過ごせる配慮に努めている。                                     | 入居時に馴染みの物は、防煙、防災に違反しなければ何でも持ち込んでもらっている。ベット位置に関しても、自宅での状況に合わせ配置し、都度変更されている。     |                   |
| 55 |      | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり<br>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している   | 廊下には手すりを設置し、室内はバリアフリーになっている。必要性をご家族と相談しながら緩衝マットを敷いたり、お風呂場やトイレ等にも手すりや滑り止めなどを設置して安全性に配慮しながらも、ご本人の力が活かせるようにしている。           | 利用者様の要望に合わせて手すり等の設置箇所を増やしており、室内にバーを設置されている方もおられ、ご自身の力を活かせるよう対応している。居室にはネームプレートを設置し、トイレの表示もわかりやすく努めている。                                  |  |                   |